

オバマ大統領第二期就任演説の内容と 特徴的修辞技法の分析

福 田 慎 司*

1. はじめに

2013 年 1 月 21 日、アメリカのバラク・オバマ大統領がワシントンの連邦議会議事堂前で行われた大統領就任式で二期目の就任演説を行った。四年前、初のアフリカ系アメリカ人としてオバマが大統領選を勝ち抜いた時、その勝因のひとつとして、“Yes, We Can” や “Change” などのキーフレーズを使用し聴衆の共感を呼び起こす演説のうまさも挙げられていた。今回は、大統領としての四年間の実績をうまくアピールしながら、“Choice” や “Forward” というメッセージで、2012 年 11 月に行われた大統領選挙で共和党のロムニー候補を相手に勝利した。

オバマの一期四年の実績についてアメリカ国内での評価は分かれており、そのことは今回オバマが得たのはかろうじて過半数を上回る 51% の得票率だったことからわかる^(註1)。しかし日本では大統領再選勝利演説が CD ブックとして複数の出版社から出版されるなど、いまだにオバマのスピーチへの評価や人気は高い。

今回の第二期大統領就任演説では、ワシントン DC の議会前のモールにはオ

* 福岡大学人文学部准教授

バマの演説を聞きに約70万人の人が集まったといわれる。日本でもこの就任演説は注目され、前回の時と同じく全国紙の新聞にこの演説が掲載された。本稿では、この第二期大統領就任演説を、映像と演説原稿を元に分析する。なお、本稿で使用した演説の映像と原稿は、ホワイトハウスのウェブサイトの中の‘President Barack Obama’s Inaugural Address’^(註2)のものである。このウェブサイトの就任演説原稿は28の段落に分けられて掲載されている。

2. 大統領としてのオバマ

オバマは前回の2008年大統領選挙の予備選挙で、民主党候補の座をヒラリー・クリントン上院議員と争って勝ち取り、11月の本選挙では共和党のマッケイン候補を破って当選した。そして今回、ビル・クリントン以来の民主党候補として再選した大統領となった。

2009年に大統領となったオバマはその年の4月にチェコ共和国のプラハで「アメリカは行動を起こす道義的責任がある」と、積極的に核軍縮に取り組む意向を示すスピーチを行った。続いて6月にはエジプトのカイロ大学でイスラムとの融和を目指す演説をした。9月には来日し、東京でアメリカのアジア政策について演説も行っている。そして10月、「核なき世界の構想は、軍縮と軍備管理交渉を力強く推し進めた」などの理由により、ノルウェーのノーベル賞委員会はオバマへノーベル平和賞を与えた。

一方アメリカ国内では、任期の最初の二年間は上院、下院ともに民主党が多数派だったため、公約だった国民皆保険制度への第一歩となる医療保険制度改革法を2010年3月に成立させるなど、大きな政策を実現できた。しかしその年の中間選挙で民主党が大敗し、その後は共和党との対立で思うように政策も進めることができなくなっていった。

2012年の大統領選挙選ではリベラルな主張を目立たせる戦略で支持者を増

やした。9月にノースカロライナ州シャーロットで開催された民主党全国大会で「中間層に減税をしてきた」「この2年半でアメリカは製造業において50万件を超える雇用を創出してきた」と自らの実績を挙げると同時に、「さあ、選択の時だ。この進歩に逆行する戦略（共和党）を選ぶのか、それともこの進歩に立脚した戦略（民主党）を選ぶのか」と、これからのアメリカのエネルギー戦略についてもオバマの武器ともいえる演説で、民主党支持者からの支援をうまくとりまとめた。

そして、共和党のロムニー候補との3回に及ぶテレビディベートでは、第1戦こそ後手に回って苦戦したものの、残りの2戦では積極的にロムニーの日和見的な態度などを攻撃し、テレビの視聴者に国を任せられる大統領というイメージを残した。

57回目となる今回の大統領就任式では、オバマは第16代大統領リンカーンと公民権運動指導者の故キング牧師がそれぞれ使用した二冊の聖書に左手を乗せて宣誓した。オバマとしては大統領選挙で分断が深まった社会の融和をはかること、つまり自分のリベラルとしての信念に対して意見が異なる国民からも今後の政策に賛同してもらえるように説明し、理解してもらう必要があった。そのため、この就任演説では演説内容の吟味はもちろん、効果的な修辭やロジックを使用し、国民からの信頼を獲得しようとしている意図がはっきりとみえる。

3. 内容分析

前回の就任演説と比べると今回の大統領就任演説は、国内向けに比重が置かれたメッセージになっていることがわかる。前回のような直接イスラム教の国々などへの呼びかけはなくなった。その代わりにオバマの大統領在任中に起きた、小学校での大規模銃乱射事件の発生場所であるコネティカット州のニュータウンの名前を挙げる（第22段落）など、現実の国内問題にひとつひ

とつ対処していこうとしていること、また、マイノリティーなど社会的弱者に政府が手を差し伸べようとしていることが印象として残るスピーチとなった。

他にも、ケネディの大統領就任演説の一説の言い換え（第3段落）やリンカーンのゲティスバーグの演説「人民の人民による人民のための政治」（第3段落）、キング牧師のワシントン DC での人種差別撤廃デモでのスピーチ（第21段落）など、アメリカ人になじみ深い偉大な先人たちの演説の一説を効果的に使用していることも特徴として挙げられる。

この演説内容を以下の四つの部分に分けて分析していく。

- A. 国を再統合し、アメリカ国民として団結する。
- B. 現在の危機的状況をはっきりさせると同時に、将来への希望や新政策を述べる。
- C. アメリカの歴史を振り返り、先駆者達の偉業を称える。
- D. 世界の国々へアメリカの意向を伝える。

- A. 国を再統合し、アメリカ国民として団結する。

(1) We affirm the promise of our democracy. We recall that what binds this nation together is not the colors of our skin or the tenets of our faith or the origins of our names. What makes us exceptional—what makes us American—is our allegiance to an idea articulated in a declaration made more than two centuries ago: (paragraph 2)

(2) “We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal; that they are endowed by their Creator with certain unalienable rights; that among these are life, liberty, and the pursuit of happiness.” (para-

graph 2)

- (3) My fellow Americans, the oath I have sworn before you today, like the one recited by others who serve in this Capitol, was an oath to God and country, not party or faction. (paragraph 25)
- (4) You and I, as citizens, have the power to set this country's course. You and I, as citizens, have the obligation to shape the debates of our time (paragraph 26)

「我々の民主主義が約束するものを断言する。この国を一つに束ねているのは肌の色でも宗教上の教義でも名前が示す出自でもないことを思い出す。我々を特別なものに、我々をアメリカ人としているのは、2世紀以上前に行われた（独立）宣言で明確に示された理想に対する忠誠だ」（第2段落）「我々は、以下の真実を自明のことと考える。全ての人間は生まれながらに平等であり、奪うことのできない一定の権利を創造主により与えられており、その中には生命、自由、幸福の追求が含まれている」（第2段落）と、さまざまな人種や宗教、民族が共存しているアメリカを団結させるために、アメリカが独立をめぐってイギリスと戦った時代までさかのぼり、当時の宣言の中に明記された建国の精神を思い出させることで国民を団結させようとしている意図がみえる。国民の大多数が共感できる価値観を明確にすることで、アメリカ国民としてまとまる原動力にしようとしている。

「アメリカ国民の皆さん、私が今日あなた方の前で行った宣誓は、この連邦議事堂で任期に入る他の人々が唱えたものと同様、神の国に対するものであり、政党や党派にはない」（第25段落）「皆さんも私も、国民としてこの国の進路を決める力を持っている。皆さんも私も、国民としてこの時代の議論を作り

あげる義務がある」(第 26 段落) など、これまで大統領選挙で闘ってきた民主党 (リベラル) と共和党 (保守) のイデオロギーを超えて、アメリカのために一致団結して国づくりをしていこうというメッセージが読み取れる。

また、「我々の旅はまだ終わらない。同性者である男女の同胞たちが、法の下でほかの人たちと同じように扱われるまでは」(第 22 段落) と、一期目の就任演説で全ての宗教の信者や無神論者について述べた内容よりも一歩踏み込んで、これまで就任演説では語られることのなかった同性愛者 (gay) についても言及している。この言葉は自分のことと同様に他人のことも認め合っていこうという時代に即した強いメッセージとなっている。

B. 現在の危機的状況をはっきりさせると同時に、将来への希望や新政策を述べる。

(1) This generation of Americans has been tested by crises that steeled our resolve and proved our resilience. A decade of war is now ending. An economic recovery has begun. America's possibilities are limitless, for we possess all the qualities that this world without boundaries demands: (paragraph 11)

(2) For we, the people, understand that our country cannot succeed when a shrinking few do very well and a growing many barely make it... We are true to our creed when a little girl born into the bleakest poverty knows that she has the same chance to succeed as anybody else, because she is an American; she is free, and she is equal, not just in the eyes of God but also in our own. (paragraph 12)

- (3) We, the people, still believe that every citizen deserves a basic measure of security and dignity. We must make the hard choices to reduce the cost of health care and the size of our deficit. (paragraph 14)
- (4) We recognize that no matter how responsibly we live our lives, any one of us at any time may face a job loss, or a sudden illness, or a home swept away in a terrible storm. The commitments we make to each other through Medicare and Medicaid and Social Security, these things do not sap our initiative, they strengthen us. They do not make us a nation of takers; they free us to take the risks that make this country great. (paragraph 15)
- (5) The path towards sustainable energy sources will be long and sometimes difficult. But America cannot resist this transition, we must lead it. We cannot cede to other nations the technology that will power new jobs and new industries, we must claim its promise. (paragraph 17)

「この世代のアメリカ国民は危機により試され、決意をより強固にし、忍耐力を証明してきた」（第 11 段落）と、2001 年のアメリカ同時テロ事件、2003 年に始まったイラク戦争、2008 年の世界経済不況にさらされてきたアメリカの現状を振り返りながらも、「10 年におよぶ戦争は終わりつつある、経済の回復も始まった。アメリカの可能性は無限だ、なぜなら我々はこのボーダーレスな世界が必要とするあらゆる資質を備えているからだ」（第 11 段落）と、これからのアメリカに対しての楽観的な観測を述べている。そして、「皆さん、我々はこの時を迎えるためにここにおり、そしてこの時を掴み取るのだ——共に掴み取るのであれば」（第 11 段落）と、国民としての協力も呼びかけている。

「より少なくなっているひとにぎりの人々だけが栄え、より多くの人々が生活していくのがやっとだという状況に陥る状況では、国家の成功もないことを理解している」(第12段落)と、現実の問題となっている一部に偏った富の存在について、富裕層にだけ恩恵があっても国は栄えないことを認識させている。そして、「我々が我々の信条に忠実だといえるのは、もっともみじめな貧困の中に生まれた少女でも、自分はアメリカ人で、自由であり、神のみならず我々の目で見ても平等なので、自分には他の人と同じように成功のチャンスがあると思える時だ」(第12段落)と、どのような環境で育ってもアメリカ人である限り平等に成功するチャンスを与えられていることを述べることで、国民を奮い立たせる効果的なメッセージになっている。

「我々は今も、国民ひとりひとりが、安全と尊厳を保つための基本的な方策を享受する立場にあるのだと信じている」(第14段落)と述べた後、「我々は医療費と財政赤字を削減するためには、厳しい選択をせざるをえない」(第14段落)、「どれほど責任をもって生きていようと、誰もいつ何時、職を失ったり、突然の病に襲われたり、暴風雨により家を流されたりすとも限らない」(第15段落)と、実際にアメリカで起こっている厳しい社会状況についてもはっきりと述べている。そして、「メディケア(高齢者向け医療保険)やメディケイド(低所得者向け医療保険)、そして社会保障により約束された相互扶助は、国民の意欲を弱めるものではなく、むしろ強めるものだ。これらの制度があるからといって、ただ与えられる物ばかりの国になることはない。むしろアメリカを偉大な国にするために、リスクをとることをいとわないようにしてくれるものだ」(第15段落)と、国民の間で賛否が分かれる医療保険制度についても自説の正しさを主張し、弱者救済はアメリカのためになるので力を合わせて立ち向かっていこうという強いメッセージを送っている。

また、「持続的エネルギー源への道のりは長く、時に困難だ。だがアメリカはこの変化に逆らうことはできず、我々がそれを主導しなければならない。我々

は、新しい雇用や産業につながる技術を他国に譲ることはできない。このような技術が約束するものは、我々自身が手にしなければならない」（第 17 段落）と、新エネルギー技術の分野でアメリカが世界をリードし、そのことによって雇用を生み出し失業率を低下させる目標をはっきりと宣言している。

C. アメリカの歴史を振り返り、先駆者達の偉業を称える。

(1) We, the people, declare today that the most evident of truths—that all of us are created equal—is the star that guides us still; just as it guided our forebears through Seneca Falls, and Selma, and Stonewall; just as it guided all those men and women, sung and unsung, who left footprints along this great Mall, to hear a preacher say that we cannot walk alone; to hear a King proclaim that our individual freedom is inextricably bound to the freedom of every soul on Earth. (paragraph 21)

(2) Our journey is not complete until our gay brothers and sisters are treated like anyone else under the law—for if we are truly created equal, then surely the love we commit to one another must be equal as well. (paragraph 22)

「我々国民は、皆が平等に造られたという最も明白な真理が、今も我々を導く星であるここに宣言する」（第 21 段落）と前置きしたうえで、「先人たちを、セネカ・フォールズで、セルマで、ストーンウォールで導いたように。ある牧師が『人は独りでは歩くことはできない』と語るのを聞くために、この広大なナショナル・モールに足跡を残した有名無名のすべての男女を導いたように。キングなる人物が『我々個々の自由は、地上のすべての人の自由と分かち難

く結びついている』と説くのを聞くために」(第 21 段落)と述べている。この中に出てくる地名は、それぞれアメリカの歴史上重要な事件が起こった場所である。セネカフォールズは、1848 年に女性の権利に関する初の集会が開かれたニューヨーク州の町の名前であり、セルマは 1965 年にキング牧師らが公民権運動のためのデモ行進をしたアラバマ州の都市名であり、ストーンウォールは 1969 年に同性愛者の権利運動の発端となる事件があったニューヨーク州の飲食店名である。このようなアメリカの苦難の歴史、特にマイノリティーが権利を求めるために歴史上アメリカが深く関わった名前を出し、先駆者達の苦勞を聴衆に思い起こさせている。その象徴としてキング牧師の名前を挙げているのである。

そしてその延長として「我々の旅はまだ終わらない。同性愛者である同胞たちが、法の下で他の人たちと同じように扱われるままでは。もし我々が本当に平等に造られたのであれば、互いに抱く愛もまた平等でなければならないからだ」(第 22 段落)と、大統領就任演説では史上初めて同性愛者の権利に関して言及している。先人達が作り、必死の思いで守り抜いてくれたものを感謝するとともに、同性愛者達の権利という新たなる権利をも人類の平等のために実現することを誓っているのである。

D. 世界の国々へアメリカの意向を伝える。

- (1) America will remain the anchor of strong alliances in every corner of the globe. And we will renew those institutions that extend our capacity to manage crisis abroad, for no one has a greater stake in a peaceful world than its most powerful nation. We will support democracy from Asia to Africa, from the Americas to the Middle East, because our interests and our conscience compel us to act on behalf of those who long for free-

dom. (paragraph 20)

- (2) And we must be a source of hope to the poor, the sick, the marginalized, the victims of prejudice—not out of mere charity, but because peace in our time requires the constant advance of those principles that our common creed describes: tolerance and opportunity, human dignity and justice. (paragraph 22)

「アメリカは地球の津々浦々で強固な同盟関係の要であり続ける。我々はまた、海外の危機に対応する能力をいっそう高めるべく制度を一新する。なぜなら最も強力な国だからこそ、世界の平和に最も大きな利害関係があるからだ。我々は、アジアからアフリカ、アメリカ大陸から中東にいたるまで民主主義を支援する。なぜなら我々の国益と良心が、自由を切望する人々のために行動せよと駆り立てるからだ」(第 20 段落) と、アメリカは諸外国と手を結び、世界の大国として民主主義を支援するふさわしい先導的な役割を果たすことを宣言している。

「さらに我々は、貧しい人々、病める人々、社会から疎外されている人々、偏見により虐げられている人々にとっての希望の泉にならなければならない。それは単なる慈悲の心からではなく、我々が共通して抱く信条が示すように、寛容と機会、人間の尊厳と正義という原則のたゆみのない前進が、今の時代の平和には必要だからだ」(第 22 段落) と、オバマ自身の信条とするリベラルな考えを伝えている。このようにアメリカは世界のリーダーとしての責任を考え、国力の強化を目指すだけでなく、弱者のために行動していく用意があることを世界に対して強く訴えているのがわかる。

4. 修辞

オバマは今回の第二期就任演説でも主語を We にした文を多用し、聴衆と一体感を醸し出す修辞を使用していたのが特徴的であった。特に、Together, We を文頭に配置する文章を繰り返しリズムよくすることで、聴衆が耳で聞いて記憶に残りやすいようにするなどの工夫をしていた。また、第一期就任演説でも使用されていた三つの技法（首句反復、並列、対比）がさらに洗練された形で使用されていた。

1. 首句反復

首句反復とは、複数の文章や語句を同じフレーズで始める手法である。

a. “Together, we determined...” (paragraph 6)

“Together, we discovered...” (paragraph 7)

“Together, we resolved...” (paragraph 8)

「ともに、我々は」の部分の繰り返しことで、これまでに「見定めた」「見出した」「決意した」ことを印象づけている。

b. “For we, the people, understand...” (paragraph 12)

“We, the people, still believe...” (paragraph 14)

“We, the people, still believe...” (paragraph 16)

“We, the people, still believe...” (paragraph 18)

“We, the people, declare...” (paragraph 21)

今回の 28 段落しかない就任演説の中で、5 つもの段落を「我々国民は」という句で始めている。この “We, the people” という表現はアメリカ合衆国

憲法前文の “We the people of the United States...” を想起させ、この表現を多用することによりアメリカ国民としての一体感を強調している。

C. “...For our journey is not complete until our wives, our mothers and daughters can earn a living equal to their efforts. Our journey is not complete until our gay brothers and sisters are treated like anyone else under the law for if we are truly created equal, then surely the love we commit to one another must be equal as well. Our journey is not complete until no citizen is forced to wait for hours to exercise the right to vote. Our journey is not complete until we find a better way to welcome the striving, hopeful immigrants who still see America as a land of opportunity until bright young students and engineers are enlisted in our workforce rather than expelled from our country. Our journey is not complete until all our children, from the streets of Detroit to the hills of Appalachia, to the quiet lanes of Newtown, know that they are cared for and cherished and always safe from harm. (paragraph 22)

印象的なフレーズ「我々の旅は終わらない」を繰り返している。そして、そのあとに、女性の権利、同性愛者の権利、移民の問題と、オバマが今回の演説で強調したい内容を述べ、聴衆の記憶に残るようにしている。

d. “You and I, as citizens, have the power to set this country’s course. You and I, as citizens, have the obligation to shape the debates of our time...” (paragraph 26)

この演説中これまでほとんど「我々 (We)」という言葉の主語にして述べてきたオバマが、演説の最後の部分で「あなた方と私は国民として (You and I,

as citizens)」という言い方をしている。この部分はこの後に続く「この国の進む道を決める力がある」「この時代の議論を方向づける義務がある」という2つのメッセージ、つまりアメリカ国民であれば大統領であろうとなかろうとどのような立場でも国の未来を決める力と、それと同時に国を良い方向に進める義務があるという、国民が一体となってアメリカの未来を創造していくのだというオバマの強い信念を際立たせる効果を持っている。

2. 並列

- a. For history tells us that while these truths may be self-evident, they've never been self-executing (paragraph 3)

「自明の」と「おのずと効力をもたらすような」のように同じ“self-”という形の単語を含んだ節を並列におくことで、「これらの真実は自明である」しかし「黙っていても実現するものではない」と強調している。

- b. We know that America thrives when every person can find independence and pride in their work; when the wages of honest labor liberate families from the brink of hardship. (paragraph 12)

「あらゆる人が自分の仕事に自立と誇りを見出した時」「誠実な労働に対する報酬が家族を困難のふちから解放する時」と並べることにより、アメリカが繁栄する条件が聴衆に伝わりやすくなる効果をもたらしている。

- c. The commitments we make to each other through Medicare and Medicaid and Social Security, these things do not sap our initiative, they strengthen us. They do not make us a nation of takers; they free us to

take the risks that make this country great. (paragraph 15)

反対する者も多いメディケアとメディケイドに対して、「自主性を奪うもの」という批判に対しては「強くするものだ」、また「我々を受け身にするものだ」という批判に対しては「この国を偉大なものとするため、リスクをとることをいとわないようにしてくれるものだ」と続けて並べることで、内容が比較されやすく利点が強調されている。

- d. With common effort and common purpose, with passion and dedication, let us answer the call of history and carry into an uncertain future that precious light of freedom. (paragraph 27)

演説の最後にあたり、歴史の要請に応え不確実な未来に貴い自由の光をもたらそうというメッセージを、「共通の努力と共通の目的」「情熱と献身」という二つの条件を対句にすることで印象深いものになっている。

3. 対比

- a. she is free, and she is equal, not just in the eyes of God but also in our own. (paragraph 12)
- b. We, the people, still believe that our obligations as Americans are not just to ourselves, but to all posterity. (paragraph 16)
- c. We will show the courage to try and resolve our differences with other nations peacefully—not because we are naïve about the dangers we face, but because engagement can more durably lift suspicion and fear. (para-

graph 19)

今回も前回の大統領就任演説と同様、not~but = (～ではなく = である) という構文が度々使用される。共和党のロムニー候補とのテレビディベートなどでは、相手のロジックや内容について矛盾点を見つけ早口で攻撃するオバマが見られたが、今回の大統領就任演説では話すスピードを落とし、聴衆が理解しやすいように修辞を利用していた。その工夫の一つがこの対比の使用である。

5. まとめ

オバマの演説が本国アメリカだけでなく、日本でも広く受け入れられる理由は何だろうか。このような疑問から四年前に大統領就任演説の分析（福田2009）を行った。本稿では、第二期大統領就任演説と第一期の演説の相違をみるため第二期演説の内容の特徴と修辞の二つに絞って分析した。

内容について印象的なのは、オバマは今回の第二期就任演説の中でも「旅 (journey)」という言葉の効果的に使用していることである。リベラル派の大統領として自らの信念とする女性や同性愛者の権利向上について、「それらが実現するまでは我々の旅は終わらない (Our journey is not complete until...)」というフレーズを繰り返し用いている。前回の大統領就任演説では、先人がアメリカ建国から今日まで築き上げてきたものを「旅」という言葉で表していたが、今回の演説でも同じ「旅」という言葉を使用することで、「先人が成し遂げてきたことを思い出そう。私たちも現在の様々な困難を克服し、次の世代に素晴らしい未来を引き継ごう」と聴衆の心に訴えているのである。

また、前回の就任演説と同じく、首句反復、並列、対比など聴衆の分かりやすさを考えた修辞を利用していた。約2000語という今回の演説の中で、これらの修辞をバランス良く配置し、約15分間のスピーチ中に聴衆の集中力を途

切れさせないよう工夫していることも分かった。

本稿では第二期大統領就任演説を内容と修辞の観点から分析した。第一期の演説の時と同じ観点から分析することで、オバマのスピーチの特徴をさらに深く分析することができた。今後はこれから四年間に行われるオバマの様々なスピーチと二つの大統領就任演説のスピーチを比較することにより、就任演説の特徴がよりはっきりすると考えられる。次回以降の研究課題としたい。

注

1. 沢田博, (2012). 「それでもオバマが選ばれた理由」. 『オバマ大統領再選勝利演説』, コスモピア p.14
なお、実数では、今回 62,615,406 票対 59,142,004 票で約 300 万票の差であったが、四年前には約 950 万票差だったことも記されている。
2. <http://www.whitehouse.gov/the-press-office/2013/01/21/inaugural-address-president-barack-obama>

参考文献

- 沢田博, (2012). 「それでもオバマが選ばれた理由」. 『オバマ大統領再選勝利演説』, コスモピア.
- 清水リサ, (2009). 「CNN ニュースセレクション 1」. 『CNN English Express』 2009 年 4 月号. 朝日出版.
- 鈴木健, (2008). 「オバマ流スピーチのひみつを探る」. 『オバマ演説集』, 朝日出版.
- 鈴木健, (2009). 「オバマ大統領「プラハ演説」のひみつを探る」. 『オバマ「核なき世界」演説』, 朝日出版.
- 鈴木健, (2012). 「オバマ再選のひみつを探る」. 『オバマ演説集』, 朝日出版.
- 瀧澤大・瀧澤中, (2002) 『ケネディは「リーダーシップ」をどう語ったか』, 中経出版.
- 津山恵子, (2009). 「オバマ大統領就任演説を読む」. 『AERA English』 2009 年 4 月号. 朝日新聞出版.

- 鶴田知佳子・柴田真一. (2006). 『リーダーの英語』. コスモピア.
- 野村和宏. (2012). 「オバマ大統領再選勝利演説に見ることばの力」. 『オバマ大統領再選勝利演説』. コスモピア.
- 福田慎司. (2009). 「オバマ大統領就任演説の内容と特徴的修辞技法の分析」. 『福岡大学人文論叢』第41巻第一号.
- 松尾式之. (2002). 『大統領の英語』. 講談社
- 三熊祥文. (2003). 『英語スピーキング学習論』. 三修社.
- James Payne & Diana Prentice Carlin. (1994). “Getting Started in Public Speaking”. National Textbook Company.
- Kevin Ryan & Adrian Pauley. (2000). “Speaking and Debating”. Phoenix Education.
- Maryanne Lenning. (1998). “Getting Started in Speech Communication”. National Textbook Company.
- Rudolph F. Verderber. (1988). “Speech for Effective Communication”. Harcourt Brace Jovanovich.
- The White House Website. <http://www.whitehouse.gov/>